

「V＋任意項N」の諸相

野 田 耕 司

0. はじめに

1. 行為の類型を表す「V＋任意項N」
2. 熟語タイプと選択・対比項タイプ
3. 選択・対比項タイプが好む文法形式
4. 文脈依存性と類名性
5. まとめ

0. はじめに

本稿は“吃食堂”（食堂で食べる）、“吃大碗”（どんぶりで食べる）、“吃小灶”（特上の料理で食べる／[比喩的に] 特別待遇を受ける）のような変則的とも言える組み合わせである動目連語（「V＋任意項N」と呼ぶ）を取り上げ、①「V＋任意項N」の具える意味機能及び任意項Nの担う意味役割（意味格）の統一的な解釈、②「V＋任意項N」の分類（熟語タイプと選択・対比項タイプ）、③「V＋任意項N」の文脈依存性と類名性、の三点について分析考察を行うものである。

1. 行為の類型を表す「V＋任意項N」

通常Vの目的語として義務的、優先的に具現化する意味役割を担うNを必須項と呼ぶならば、他動詞の場合、Vの表す動作の受け手である[受動者]（例えば“吃饭、唱歌”の下線部）、製作義を具える動作を受けて生み出される生産物である[結果]（“写字、画画儿”）がそれに当たる。また[受動者][結果]ほどではないが、半ば義務的、優先的に目的語になる「准必須項」と呼べるものとして、付着義を具えるVと格関係を結ぶ[材料]（“抹口红、盖塑料布”）、[場所（着点）]（“抹嘴唇、

盖酱缸”)がある¹⁾。

本稿で任意項²⁾と呼ぶものはこれらを除いた、通常目的語として具現化し難い(普通は介詞〔前置詞〕を伴って状語〔連用修飾語〕となるものが多い)一部の〔場所〕(“吃食堂、坐办公室”)、〔道具〕(“吃大碗、写毛笔”)、〔方式〕(“吃小灶、唱高调”)などを担うNである。この他、介詞を伴った状語としても現れ難いことから、Vとの格関係が判然としないN(“哭鼻子、跑龙套”)も任意項に含まれる。以下に「V+任意項N」の例を挙げる。慣用句の中には、“吃小灶”(特上の料理で食べる／〔比喻的に〕特別待遇を受ける)のように比喻義を具えない本来の動目連語の意味・用法を併せ持つものも含めてある。

〔場所〕 吃饭馆、吃食堂、唱堂会、读大学、教大学、跑高速路、走高速路、睡大床、睡上铺、睡沙发、睡地板、睡地铺、坐沙发、坐板凳、洗温泉、(以下慣用句) 闯关东、闯江湖、闯世界、骂大街、跑码头、走后门、走西口、坐办公室、坐第一把交椅、坐冷板凳

〔道具〕 吃大碗、喝小杯、看放大镜、烤火炉、写毛笔、洗凉水、照手电筒、(以下慣用句) 打杠子、打棍子、牵红线、敲竹杠

〔方式〕 吃大灶、唱C调、唱女高音、唱小生、画水彩、写正楷、洗淋浴、踢前锋、打前锋、跑长跑、织平针、(以下慣用句) 唱高调、唱老调、吃小灶、走过场³⁾、走形式

〔その他〕 闯红灯、(以下慣用句) 哭鼻子、跑龙套、跑腿儿

周知のとおりNの意味役割に関しては恣意的に解釈されるきらいがあり、例えばNがやはり任意項の“洗温泉”(温泉に入る)の“温泉”を〔場所〕とするか(孟琮・他1987《动词用法词典》, 802では〔場所〕とする)、“洗淋浴”(シャワーで〔体を〕洗う→シャワーを浴びる)の“淋浴”のように入浴の仕方ととらえて〔方式〕とするかは解釈が分かれるところであろう。しかし、本稿では広義の〔方式〕と統一的に解釈するのが妥当であると主張したい⁴⁾。目的語の“温泉”“淋浴”は入

浴行為を類別するための「型」として働いているのであり、類型化された各行為の「象徴」⁵⁾となる事物である。行為の型、象徴としての事物はVの表す動作との関係で言えば、広い意味で動作の方法・手段を表しており、Nは行為を類型化するための決まったやり方である[方式(広義)]を担っていると考えられる。“在温泉里{洗身体/洗澡}”(温泉で体を洗う)の“温泉”が入浴場所としての事物を表しているのに対して、“洗温泉”の“温泉”は入浴手段としての事物を表しているのである。“在温泉里{洗身体/洗澡}”は日本語で言えば、「温泉において体を洗う」に相当し、“洗温泉”の方は日本語としては少々不自然な言い方だが「温泉によって(体を)洗う」に相当する。

今述べたことは、上で[場所][道具][方式(狭義)][その他]と便宜上分類した「V＋任意項N」の例にも当てはまり、例えば比喻義を具える慣用句“坐办公室”(事務室・オフィスで座る→事務仕事をする)の“办公室”は仕事場所が仕事の方式としてとらえられてVN全体で職種を表している。後述するが、「V＋任意項N」はこのように類型化された行為の名称、すなわち類名として用いられることが多い。

[その他]についても、例えば“跑龙套”(雑用係をやる、使い走りをする)の原義が「護衛や兵卒役の舞台衣装で走り回る」と正しく理解できるのは、何よりもまず「動作－方式(広義)」が「V＋任意項N」における格関係の基層にあるからだと言える。その意味で「(V＋)任意項N」は場所、方法・手段、道具などを表す日本語の格助詞「で」をとる「Nで(Vする)」に似通っている。“洗温泉”の逐語訳「温泉で(体を)洗う」がまさにそのことを物語っていよう。

2. 熟語タイプと選択・対比項タイプ

「V＋任意項N」において「洗{温泉/淋浴}」のような熟語度が高いタイプ(以下、「熟語タイプ」と呼ぶ)の典型は、VもNもはや文字通りの意味を表さない“坐冷板凳”(冷や飯を食わされる)、“敲竹杠”(言いがかりをつけてゆ[・]す[・]る)、“唱高调”(調子のいいことを言う)のような慣用句であり、固定化されたこれら

のVNは“坐冷板凳”が「仕事を干される」事象を、“敲竹杠”が「恐喝する」行為、“唱高调”が「大言壮語する」行為を指称する類名ともなっている。また、慣用句とは異なり比喩義を具えない熟語タイプの“洗{温泉/淋浴}”、“吃{食堂/饭馆}”もそれぞれ類型化された入浴行為、飲食行為の名称を表している。

「prep + N + V」(prepは介詞を示す)の形式をとる“在{食堂/饭馆}吃(饭)”は拡張されて“在那家{食堂/饭馆}吃了一顿饭”のように行為の事例である個別的行为を表せるのに対して、“吃食堂/饭馆”は“吃了那家{食堂/饭馆}”のようには言うことはできないことから、これらのVNが表す行為は非個別的な一般的行为であると言える。もちろん“在{食堂/饭馆}吃(饭)”も“平时在{食堂/饭馆}吃饭”のように一般的行为を表すことができるが、“吃{食堂/饭馆}”の場合、「V + 任意項N」の有標形式をわざわざとるようになったのは、この形式で示される行為が単なる一般的行为でなく、中国語が使用される社会で特別視され、ある種のニュアンスを帯びた「行為のパタン(行為の類型)」としてネーミング(名づけ)が必要とされる行為だったからであろう⁶⁾。中国で旧時、慶事の際に、家へ役者や芸人を招いて催す演芸会(“堂会”)で歌い演じることを“唱堂会”と言ったが、この「V + 任意項N」もニュアンス的に無色透明でニュートラルな単なる一般的行为でないことは言うまでもない。

このように風俗習慣などは特別視される「行為のパタン」の典型であり、VNの形式をとって命名されているものはこのほかにも数多くある。例えば、「V + 任意項N」では“踩高跷”(高足踊り[を踊る]、原義は「竹馬のような長い木の棒で踏みつける」)、“扭秧歌”(田植え踊り[を踊る]、原義は「田植え踊りで体をくねらせる」)が挙げられよう。これら熟語タイプは文脈などコンテキストに依存せずとも容易に意味解釈が可能な「V + 任意項N」の組み合わせであり、見出し語として辞書に収録されているものもある。これらのVNが容易に意味解釈可能なのは中国社会において認知され定着した言い方だからである。

ところで、“洗{温泉/淋浴}”と同じくNが広義の[方式]を表すVNに“洗{凉水/冷水/温水/热水}”があり⁷⁾、直訳すると「冷水/温水で洗う」となるが、

通常は入浴の仕方を表し「冷水浴／温水浴をする」の意味で用いられ、“洗{温泉／淋浴}”同様、行為のパタンを表している。ただ、Nには“凉水、冷水、温水、热水”のような水温に基づいて分類された水が来ることから、入浴用の水の下位類が取舍選択や対比の文脈で選択項や対比項となってNに現れる点が、熟語タイプとは些か異なる。(1)はNが選択項、(2)は対比項の例である。

- (1) 标间双人床，有空调，没热水洗澡，但有开水壶装有热水给你喝或者洗脸洗脚，洗澡就算了，洗冷水吧。

(马蜂窝问答，<登泰山爬经典线在玉皇顶住一夜，请推荐酒店>：

<https://www.mafengwo.cn/wenda/detail-17629542.html>)

(スタンダードルームのダブルベッド、エアコン常備、入浴用のお湯は有りませんが、飲んだり顔や足を洗ったりするためのお湯はやかんに有ります。お風呂はあきらめて、水で体を洗ってください。)

- (2) 只要从秋天坚持下去，早起洗冷水，晚上洗热水好处可多了。(BCC)

(秋から続けさえすれば、朝の冷水浴（水風呂）、夜の温水浴（熱いお風呂）は益するところが実に多い。)

この種の「V＋任意項N」には“洗{凉水／冷水／温水／热水}”の他に、“吃{大碗／小碗}”、“喝{大杯／小杯}”、“睡{大床／小床／上铺／下铺}”があるが、Vと無理なく結合できるNは常識に照らし合わせて、Vで表される動作の方法・手段となり得る事物で且つその事物の下位類である。従って、そもそも常識から外れた想定外の行為である“吃杯子”（コップで食べる）、“喝盘子”（大皿で飲む）、“睡桌子”（机で寝る）は普通、文脈を離れた連語レベルではまず成立しない。また、たとえNが動作の方法・手段と通常認識される事物であったとしても、同類の事物を下位分類する属性である“大”“小”を除いた、“吃碗”（お碗で食べる）、“喝杯子”（コップで飲む）、“睡床”（ベッドで寝る）はやはり文脈なしには成立

し難く、Nが広義の「方式」を表すことができないことから、このタイプのVNが成立するためにはNが選択・対比項として働く必要があることがわかる⁸⁾。(3)～(5)はNが選択項、(7)(8)は対比項の例である。(6)のNは話し手の意志や聞き手に対する命令を表すモダリティ文なら選択項であり、事象（事態）を叙述する平叙文なら対比項であると言える。

- (3) 我不吃大碗，我要吃小碗。(张云秋2004, 85)

(私は大きな碗では食えず、小さな碗で食べる。)

- (4) 滷肉饭到底是吃大碗还是小碗？（味之道，<Episode17. 台湾滷肉饭，大碗还是小碗？>：https://wzd.pan.icu/17)

(滷肉飯はそもそも大きな碗、小さな碗のどちらで食べるか。)

- (5) 他们几乎也不用点单，谁喝大杯谁喝小杯，服务员全都记得。

(企鵝吃喝指南，<50年前就开始喝咖啡，才是真时髦>：

https://render.alipay.com/p/f/fd-daren/index.html?__webview_options__=so=YES&canPullDown=NO&cityId=330300&article_id=20170206041300086462&source=TOP_LINES&)

(彼らはほとんどメニューを見て注文しなくてもよい、誰がLサイズのカップで誰がSサイズのカップ〔で飲む〕か、店員は全て頭に入っている。)

- (6) 我睡大床，你睡小床。(用法，676)

(僕は大きいベッドで寝るから、君は小さいベッドで寝なさい。)

(僕は大きいベッドで寝て、君は小さいベッドで寝る。)

- (7) 大人喝大杯，小孩儿喝小杯。(张云秋2004, 85)

(大人は大きいコップで、子どもは小さいコップで飲む。)

- (8) 住在222房间的科研人员金星和郑涛，他们一个睡上铺，一个睡下铺，……
(CCL)

(222号室の研究員、金星と鄭濤は、一人がベッドの上段でもう一人が下段で寝て、……)

杉村2017, 230は選択項タイプのVNに関して、「極めて口語的で文脈依存性の高い表現」ととし、「那把刀不快，你切这把（刀）吧。」（そっちの包丁は切れない、こっち〔の包丁〕^{ママ}を切りなさい→こっち〔の包丁〕^{ママ}を使いなさい）という文⁹⁾を例に「このような短絡が、唯一用具の取捨のみが未確定な状況にあるという環境で発生して」おり、「ある事象に登場すべき意味役割がすべて発話の場に確立された後、特定の意味役割の下位分類が選択項として新情報であるとき、それを事象のフレームを構築する動詞で導くのである」と述べる。“那把刀不快，你切这把（刀）吧。”という文では「指示代詞＋量詞」の“那把”“这把”が定語（連体修飾語）となって“刀”を下位分類する区分として働いていることから、“用这把（刀）切”から“切这把（刀）”のような短絡は口語では取捨選択のコンテキストがありさえすれば、意外と生産的なようである¹⁰⁾。そのことを裏づける例を以下にいくつか挙げてみるが、口語で多用されることを反映してかインターネット上のブログや、戯曲、小説のセリフの部分に多く見られる。以下は杉村2017の例文同様、目的語が指示代詞を伴うものである。

- (9) 最近妈妈感冒了，咳嗽^{ママ}的蛮厉害。我就一直抱怨，感冒了，还一会儿吃这碗一会儿吃这双筷子，不要让我也感冒了亚。说出这句话后我有点后悔了，……

(强强猪的博客，<爱的守则>: http://blog.sina.com.cn/s/blog_4aab4c0601000bo1.html)

(最近母が風邪をひき、咳がひどい。風邪をひいたのなら、こっちの茶碗で食べて、こっちの箸で食べて、私にうつさないでねと、私は母にずっと文句ばかり。文句を言った後、私は少し後悔した。……)

- (10) 上校：是吗，那你也来一杯吧。

老板娘：不可以的，谢谢。

上校：小小一杯而已么。

老板娘：不可以的。

上校：没关系，我来帮你拿杯子。

老板娘：那，我就喝这杯吧。(では、これで頂戴いたします。)

上校：可那是我的杯子啊。

(格尔多尼《女店主》〔カルロ・ゴルドーニ『宿屋のおんな主人』], CCL)

人称代詞もまたNを修飾することにより同類のNを下位分類できることから、次のような選択項タイプの用例もある。

- (11) “旅店主人把你的房间给别人了。”卡拉蒙说，又匆忙加上一句，“但你可以睡这边，坦尼斯，睡我的床 ——” (《龙与地下城》〔『ドラゴンランス』シリーズ], BCC)

(「宿屋の主人があなたの部屋を他人に与えてしまった」キャラモンはそう言うと、また慌てて一言付け加えて言った。「だけど、こっちで寝てもいいよ、タニス、俺のベッドで寝ても。——」)

- (12) 平儿站起来，找杯子倒水给贾琏喝。她没有找到多余的杯子，因为不想动那两个室友的杯子，就说：“你喝我的杯子，不介意吧。”贾琏笑道：“会吗？”平儿倒了开水递给他，说：“我不喝茶，所以没有好茶招待你。”

(何诚斌《我的红楼》)

(平児は立ち上がると、賈璉に水を注いで飲んでもらおうとコップを探した。しかし、余分のコップは見当たらなかった。ルームメイト二人のコップを動かすのはためらわれたから。「私のコップで飲んで、気にしないでしょ」と言うと、賈璉は笑って「気になんかするもんか」と言った。平児は白湯を注

いで彼に渡して言った。「私、お茶を飲まないから、あなたをもてなす良いお茶がないの」)

このように取捨選択のコンテキストがあれば、特に口語では比較的容易に「V＋任意項N」の形成が可能であり、たとえNが指示代詞や人称代詞による分類化を受けずとも、Vの方式となり得る同類のNが選択項として機能しさえすれば「V＋任意項N」の形成は可能になる。従って先に普通は成立不可能だと述べた“睡床”も文脈に依存すれば次のように成立し、“睡那个床”はもちろん“睡沙发”も成立する。

- (13) 娟子抱着被子去沙发处。“娟儿，我睡沙发！你睡床！”娟子回过头来，说出的每一个字都像是一块石头，稳准狠地砸在刘东北的心上，“我不要再睡那个床！它让我恶心！”娟子蜷缩在客厅的沙发上睡着了。（《中国式离婚》，CCL）
- （娟子は掛け布団を抱えてソファەرに向かう。「娟兒、僕がソファەرで寝るから、君はベッドで寝なさい」娟子は振り返ると、彼女が口にした一文字一文字がまるで石のようにまともに劉東北の心にぶつけられた。「もうそのベッドでは寝たくないの。気分が悪くなるから」娟子は応接間のソファەرに縮こまって眠ってしまった。）

なお、文脈を離れた連語レベルでは“睡床”は成立しないのに“睡大床”は比較的容易に成立するのは、“睡大床”の“大”が分類基準となる属性と見なされ暗黙のうちに“(睡)小床”の存在が意識されることで、選択・対比の読みが生まれるからであろう。一方、“睡床”の方は文脈の支えによって、はじめて選択・対比の意味が発生しVNが成立するため、動詞の用法辞典などには“睡床”の例が記載されることはまずない。

同様に、Nが分類基準となる語句を伴わない“吃筷子”（箸で食べる）や“吃刀叉”（ナイフとフォークで食べる）も通常は成立しないが、両者を食事の方式（具

体的には道具)の下位類として対比させた文脈で用いればどちらも成立する。

- (14) 在中国,人们喜欢吃筷子;在西方,人们喜欢吃刀叉。(陶红印 2000)

(中国では箸で食べるのを好み、西洋ではナイフとフォークで食べるのを好む。)

対比、選択されることによりNが焦点化され、「V+任意項N」の組み合わせが可能になるのである。分類基準となる属性形容詞を語素(形態素)として伴ったNを用いた“睡{大/小}床”では文脈に依らずとも連語レベルにおいて暗黙のうちにNに焦点が当てられている(あるいは人はそのような解釈をする)のだと言える。次の“洗洗发水”(シャンプーで洗う)もNが取り立てて目新しい情報的価値を有していないため連語レベルでは「V+任意項N」の形成が難しいが¹¹⁾、次の例文では明らかにNの“洗发水”に焦点が当たっているためVN形成が可能になっている。

- (15) 初生婴儿头发需要洗洗发水吗?

(PCbaby, <初生婴儿头发需要洗洗发水吗, 婴儿多久可以用洗发水>:

<https://baike.pcbaby.com.cn/yycs/2005/4914626.html>)

(生まれたての赤ちゃんの髪の毛をシャンプーで洗うべきですか。)

“睡床”“吃筷子”“吃刀叉”“洗洗发水”とは逆に常識から逸脱した想定外の行為である“喝盘子”(大皿で飲む)も、選択・対比の文脈に依存すれば成立する可能性はある。例えば、皿よりは飲用に適する容器と言える碗の場合、“喝碗”(碗で飲む)というVNは孫天琦 2019, 95に述べられているように、次のような選択・対比の文脈でなら成立可能であり、もちろん常識的な行為の“喝杯子”も成立する。

- (16) (家のコップが不足している時に家の主人が発する言葉)

“客人喝杯子，我们喝碗。”(孙天琦 2019, 95)

(お客さんはコップで飲んで下さい、我々はお碗で飲みますから。)

分類基準を伴うNを用いた“喝{大碗 / 小碗}”なら、なおさらのこと成立が容易になる。

- (17) 赶车人喝大碗，学生喝小碗。(陈昌来 2003, 211)

(御者は大きな碗で飲み、学生は小さな碗で飲む。)

このように選択・対比項タイプのVNは、動作の方式となり得る複数の同類の事物の中から選んだり、同類の事物を複数対比させたりするような文脈に依存して成立する「V＋任意項N」であり、そのような文脈を必ずしも必要としない熟語タイプとは性格が異なる¹²⁾。

選択・対比項タイプのうちNが選択項のものは、特に会話（話しことば）に現れ、伝達機能として話し手の意志や、聞き手に対する命令を表す。例えば(13)の“我睡沙发!”は話し手が行為の方式を選択しようとする文であり、“你睡床!”は聞き手に行為の方式を選択させようとする文である。一方、Nが対比項のものは文章（書きことば）に現れることが多く、VNを連用させて一種の対挙形式（後述）にし、行為の方式を対比して述べる平叙文として用いられる。(2)の“早起洗冷水，晚上洗热水”や(14)の“在中国，人们喜欢吃筷子；在西方，人们喜欢吃刀叉。”がこれに当たる。なお、本稿ではこのようにNが生起する文の伝達・表現機能から選択項と対比項に分けたが、方式の取捨選択もまた複数の方式の対比の上で為されることを考えると、選択項も広義には対比項であると言えなくもない。

3. 選択・対比項タイプが好む文法形式

選択項タイプは杉村2017, 230が指摘するように「唯一用具の取捨のみが未確

定な状況」で用いられることから、“(那把刀不快,) 你切这把(刀)吧。”のような命令文は当然構成可能だが、“*他切了这把(刀)。”(彼はこっち〔の包丁〕^{ママ}を切った)のような用具の取捨が確定済みである平叙文は構成できないとされる。つまり、“切”と“这把(刀)”によるVN形成は、取捨選択のコンテキストに極めて強く依存して成立する「その場限りの臨時的な組み合わせ」であると言えることができる。(13)の“睡床”、“睡那个床”がそのような組み合わせに当たるが、これらのVNはやはり、次の単文のように、コンテキスト無しでは用具(方式)の取捨選択が確定済みの平叙文を構成することは難しい。Nが属性形容詞を伴った“吃小碗”も同様で、(3)の“我要吃小碗。”のように選択を行おうとしている状況に用いられている主語(話し手)の意志を表した文は成立するが、方式の取捨が既に完了している事象を表した単文は対比のコンテキスト(言外も含む)無しにはやはり成立し難い¹³⁾。

(18) ?她睡了床。

(19) ?我睡了那个床。

(20) ?我吃了小碗。

谢晓明・王宇波2009は「“跑/走”+N」(Nは任意項)を考察対象にイレギュラー(変則的)な結合(“非常规搭配”)である「V+任意項N」の形成を可能にする文法形式を複数挙げている。(例文は全て谢晓明・王宇波2009より)。

(ア) 对举形式

(21) 她走她的独木桥, 我走我的阳关道。(周而复《上海的早晨》)

(彼女₁は彼女₂の信じた道(←丸木橋)を行き、私は私で大道を行く。)

(22) 我不走大路走小路, 不走大街钻小巷, 一路寻找着大字报向金门走去。(陆文夫《人之窝》)

(私は大通りを駆け回るのでなければ小道を駆け回り、繁華街を駆け回るのでなければ路地を駆け回って、ひたすら壁新聞を探し求めて金門へ歩いて行った。)

(イ) VNを並列関係で連用する形式

- (23) 她整日紧闭了嘴唇，头上带着大家以为耻辱的记号的那伤痕，默默的跑街，扫地，洗菜，淘米。(鲁迅《祝福》)

(彼女は一日中口元を引きしめ、人々から恥辱の印と見なされている傷跡を額につけたまま、黙々と使い走りをし、掃除をし、野菜を洗い、米をといだ。)

- (24) 他们和村民门一起把“三跑田”(跑水、跑土、跑肥)改造成“三保田”(保水、保土、保肥)。(李生明《感受大泉山》)¹⁴⁾

(彼らと村人たちは一緒になって「三跑田」〔水を求めて奔走し、土を求めて奔走し、肥料を求めて奔走すること〕を「三保田」〔水を保ち、土を保ち、肥料を保つこと〕に改めた。)

(ウ) 動詞コピー構文

- (25) 水香说：“我是说你跑星子家跑得勤”(方方《桃花灿烂》)

(水香は言う。「私はあなたが星子の家に足しげく出かけていると言っているの」)

(エ) ある種の副詞、介詞、助動詞との共起

- ① 副詞“经常、总是、没”

- (26) 他经常跑第一名。

(彼はいつも走って一位をとる。)

- (27) 他没跑第一名。

(彼は走って一位をとらなかった。)

② 介詞“为、为了”

(28) 为了跑第一名，他每天都刻苦训练。

(走って一位になるために、彼は毎日懸命に練習に励んでいる。)

③ 助動詞“能、可以”

(29) 他是几届的冠军，这一次肯定能跑第一名。

(彼は何度か優勝したことがあるから、今回もきっと〔走って〕一位をとるに違いない。)

注目すべきは上記の文法形式のいずれもがアスペクト助詞“了”の生起しない、すなわちVの表す動作が非限界的(“无界”)、非個別的なことである。このうち、VNを複数使用する(ア)対举形式と(イ)VNを並列関係で連用する形式(イも対举形式の一種と言える¹⁵⁾)は、鈴木2001が「対举形式は、事態の個別的展開を述べずに事態の構成部分を類別的に言及するための、構造の型であり構文である」と述べているように、VNの表す行為と他のVNの表す行為との間における事象(事態)の時系列的展開が見られず、事象の部分を類別的に描いたり、提起(列挙)したりする表現になっている。

以下の文は文脈から判断するに下線部VNの行為が実現済みととれるが、下線部にはアスペクト助詞“了”は用いられていない。下線部における話し手の関心は事象の展開でなく、お手伝いさんと赤ちゃんの寝方にあり、Nに対比項として焦点を当てた「V+任意項N」を使用することにより、それぞれの寝方を類別的に表現するのに相応しい文が出来上がっている。

(30) 真要命，搬家与带孩子如何同时进行？事在人为，总有办法，南孙用一日时间搬好地方，再到飞机场把婴儿接到，抱回家中，保姆暂时睡地板，婴儿睡沙发。整整一个星期，利用午餐空档及下班时间，她把一个四口之家弄得井井有条。
(亦舒《流金岁月》，CCL)

(困った。引っ越しと子どもの世話、どうやって同時にこなすか。やり方次第で何とでもなるものだ。南孫は一日使って引っ越しを終わらせ、空港に赤ん坊を迎えに行くと抱いて帰宅した。ひとまずお手伝いさんには床に寝てもらい、赤ん坊はソファに寝かせた。丸々一週間、昼食の合間と仕事の終わった時間を利用して、彼女は四人家族が住む家をきれいに片付けた。)

[方式] Nの違いによって同類行為を下位分類し、それら各種の非個別行為の類型（パタン）を表す「V＋任意項N」、特に選択・対比項タイプにとって、対挙形式（複数のVNの連用形式を含む）は恰好の文法形式であると言える。

一方、取捨選択や対比の文脈を必要としない熟語タイプのうち慣用句は“了”との共起が可能なものもあり、事象の個別的展開を述べることもできる。

- (31) 在路上让强盗打了杠子，所带的东西被抢了个精光。(例解：訳も『例解』による)

(途中で強盗に出会い、持ち物はすべて奪われた。)

- (32) 他今天在会议上就走了走过场，没有讨论什么重要的问题。(300：訳も『300』による)

(今日の会議で彼は形式的なことを言ってお茶をにごしただけで、大事な問題については何も議論しなかった。)

- (33) 那些人又为了一些鸡毛蒜皮的事情骂起大街来了。(300：訳も)

(あの人たちがまたささいな事でわめき散らし始めたわ。)

- (34) 只喝了一点儿啤酒就被酒巴的人敲了二万日元的竹杠。(例解：訳も)

(少しビールを飲んだだけで、バーで2万円ふんだくられた。)

もっとも熟語タイプのうち非慣用句、例えば“吃饭馆（ / 食堂）”は上例にあるような“了”を用いた拡張形式をとることが些か難しい（注も参照）ことから、事象の個別的展開の表現にはあまり向いていないことがわかる。選択・対比項タイプの性質も一方では具えているということであろうか。

(35) *我们吃了饭馆再走。¹⁶⁾

(36) *他吃了吃饭馆。

(37) ?他吃起饭馆来了。¹⁷⁾

(38) *我们吃了二万日元的饭馆。

4. 文脈依存性と類名性

先に選択・対比項タイプとして挙げた“睡沙发”は(13)の“我睡沙发!”のように話し手（主語）の取捨選択の意志を表した文ではNが選択項として、(30)の“保姆暂时睡地板，婴儿睡沙发。”のような対挙形式を用いた文では対比項として、それぞれ機能していると言えるが、しかしながら“睡”と“沙发”の組み合わせは取捨選択や対比のコンテキストがなければ成立しないと言うわけではない。

(39) 哥哥经常睡沙发。(大词典, 817)

(兄はいつもソファで寝ている。)

(40) 睡沙发会着凉的。(BCC)

(ソファで寝ると風邪をひくぞ。)

(41) 上班，他最早；下班，他最迟；加班加点已是经常的事；一年四季，没有休息日。长期劳累，他形成了睡沙发的习惯，这样经年累月，躺在床上反而睡不着觉了。(BCC)

(出社は彼が一番早く、退社は彼が一番遅い。超過の残業はもういつものこ

と。一年中休みはない。長期にわたる過労によりソファで寝る習慣がついてしまい、このような長い年月を経て、ベッドに横になるとかえって寝付けなくなってしまった。)

(39)(40)は前後に選択・対比の文脈がなくとも、何ら問題なく成立する。(41)は“睡沙发”の後に“躺在床上”とあることから、対比の文脈が必要のように思うかもしれないが、(39)(40)と同様にコンテキスト・フリーの単文であっても十分に成立する。

- (42) 他{形成 / 养成}了睡沙发的习惯。
(彼はソファで寝る習慣がついた。)

これらの例文では、“睡沙发”そのものが行為の類型を表した熟語タイプに性格が近づいている¹⁸⁾。

コンテキストを離れた連語レベルで成立する「V＋任意項N」の“睡沙发”はその成立過程において通常のノーマルな寝方である「ベッドで寝る」が対比対象として言外に意識された言い方であることは言うまでもないが（その意味ではNの“沙发”は生起する文の伝達・表現意図に関わらず、連語レベルの時点で既に選択・対比項であるとも言える）、例文のようにコンテキスト・フリーの単文に生起し、意味が容易に正しく解釈できる点で、“睡床”“睡那个床”のようなコンテキストを離れた連語レベルでの形成が困難で、選択・対比の文脈に依存することにより文レベルでの生起が可能になる選択・対比項タイプの典型とも言えるものとは明らかに性格が異なっていることがわかる。

選択・対比のコンテキストがなくとも“睡沙发”が違和感なく使われているのは「ソファで寝る」という行為自体が特異な「寝方」のパタンとして広く人々に認知され、“睡沙发”というVN形式が類名として定着しているからであろう¹⁹⁾。先述したように行為に対する名づけはイレギュラーな組み合わせである「V＋任意項N」形成の動機として働いており（例えば(24)の“三跑田（跑水、

跑土、跑肥)”は行為の命名が「V＋任意項N」形成の動機となることを端的に示している)、ネーミングの必要性の乏しい、ごく当たり前の行為には「V＋任意項N」という形式をわざわざとって表すことは通常ない。

“睡床”よりは“睡沙发”の方が明らかにVNを用いた名づけの必要度が高く、同様に書道以外で毛筆を使って字を書くことの少なくなった現代においては“写铅笔”(鉛筆で書く)や“写钢笔”(ペンで書く)より“写毛笔”(毛筆で書く)の方が命名の必要性が増す。ただ、繰り返しになるがN(方式)に焦点を当てる必要のないごく当たり前の行為パターンも選択・対比のコンテキスト下ではNに焦点が当たり「V＋任意項N」の構造をとって行為の類名として働く。次の比較文に“写毛笔”とともに現れている“写钢笔”がそれである。

- (43) 呵呵, 昨天的会议我告诉大家用吴教授教的毛笔书法方法非常有效, 写毛笔比写钢笔更轻松更快, 所以她们就打趣我了。

(伏羲教育林美娟_新浪博客, <一句打趣带来的挑战——毛笔手抄感想一篇>:
http://blog.sina.com.cn/s/blog_6456fe550102vb6j.html)

(ふふ、昨日の会議でみんなに呉教授の教える毛筆習字の方法だととても効果があって、筆書きはペン書きよりももっと軽快だと言ったら、みんな私のことをからかっていた。)

先に選択・対比項タイプとして挙げた“洗{凉水／冷水／温水／热水}”も選択・対比のコンテキストが明示されていなくとも、次の例文のようにVNの組み合わせが成立し入浴のパターンを表す類名であると容易に意味解釈可能なことから、これらの組み合わせは熟語タイプ同様、社会における定着度が相当高いのだと言える。

- (44) 皮肤体表毛孔开张, 毛细血管也大量扩张, 血液循环加快, 若此时洗凉水, 皮肤受冷刺激, 使毛细血管骤然收缩。(BCC)

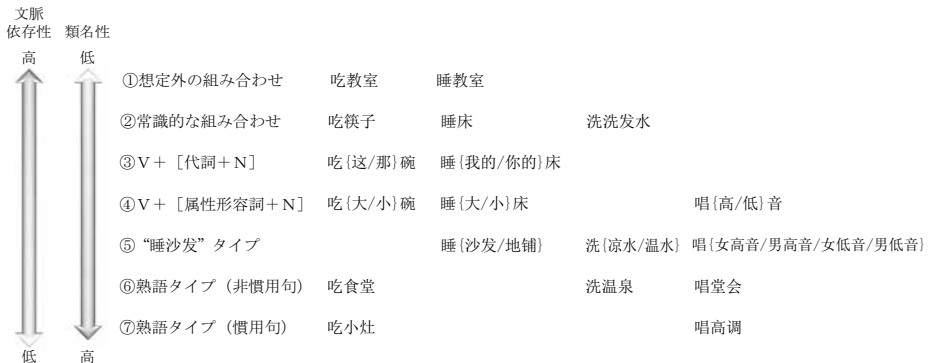
(皮膚の表面の毛穴が広がり、毛細血管も大きく拡張して血液の循環が速まっている時に冷水浴をすると、皮膚は冷たい刺激を受け毛細血管が突然収縮してしまう。)

- (45) 洗热水和按摩，能促进新陈代谢，改善血液循环，排除瘀积的废物，旅途劳顿后，洗热水最为有利。(BCC)

(熱いお風呂とマッサージは新陳代謝を促し、血の巡りを改善する。旅の疲れには、熱いお風呂が最も効く。)

このように選択・対比項タイプの「V＋任意項N」と言っても、その成立に関わる文脈依存の程度、翻って言えば類名化の程度は“睡床”“洗洗发水”のようなものから“睡沙发”“洗{凉水/温水}”のようなものまで一樣でないことがわかる。次の図の①～⑤が選択・対比項タイプに当たる。

【図】「V＋任意項N」の類型



図に示したように、選択・対比の文脈依存度が高い“睡床”“洗洗发水”②は類名化の程度が低く、逆に文脈依存度が低い“睡沙发”“洗{凉水/温水}”⑤“睡沙发”タイプ)は類名化度が高いと言える。それらの中間に位置するのが“吃这碗”“睡我的床”のような「代詞+N」を目的語にとるタイプ③と“吃大碗”“睡小床”のように「属性形容詞+N」(属性形容詞が単語でなく語素となっているものも含む)を目的語にとるタイプ④であり、いずれも代詞や形容詞によってNを分類し選択・対比項の働きを持たせているが、③の方が文脈依存度が高く、主に取捨選択の文脈で用いられることから、行為パタンとしての類名性は低い。④はVNが固定化し行為パタンの類名として人々の間で定着すれば⑤、更には⑥に移行する可能性も大いにあり、⑤の“唱{女高音/男高音/女低音/男低音}”({ソプラノ/テノール/アルト/バス}で/を歌う)は④の“唱{高/低}音”({高音/低音}で歌う)よりも明らかに類名となって定着していると言える。

選択・対比の文脈依存度がかなり低く、類名化度がかなり高い「V+任意項N」に“吃食堂”“唱堂会”のような非慣用句の熟語タイプ⑥が位置し、慣用句の熟語タイプ⑦の“吃小灶”“唱高调”はそれよりも更に文脈依存度が低く類名化度が高い、言わば極限の位置にある。その対極に位置するのが、極めて文脈依存度が高く類名化度が低い、通常では考えられない、想定外の方式による行為を表す「V+任意項N」の組み合わせ①である。文脈を離れた連語レベルでは②③同様、VとNを組み合わせることが不可能だが、文レベルでは対挙形式を用いた文に生起可能なタイプである²⁰⁾。ただ想定外の組み合わせと言っても、注19)に記した“睡课桌”(教室の机で寝る)のように特異な行為パタンの名称として確立すれば、もはや選択・対比の文脈がなくとも成立し、⑥に一気に近づくこととなる。

以上のように選択・対比項タイプと熟語タイプは文脈依存度と類名化度を基準にグラデーションを成す地続きの関係にあり、また流動的であるとも言える。

5. まとめ

本稿では「V＋任意項N」を行為の類型（パタン）を表す、言わば行為の類名ととらえ、従来「場所」「道具」「方式」などとされてきた任意項Nの意味役割を、行為を類別する拠り所となる広義の「方式」と統一的に解釈した。「V＋任意項N」の中でも、VとNの固定度が高い熟語タイプ（例えば、“吃食堂、吃小灶（慣用句）”）は特に行為の類名と見なすことができ、取捨選択や対比の文脈に頼らずとも連語レベルにおけるVN形成と文レベルにおける生起が可能である。

熟語タイプ以外の「V＋任意項N」すなわち選択・対比項タイプは基本的に選択・対比の文脈の支えを必要として形成、文に生起するVNで、Nは行為パタンを形作る上で候補となり得る複数の方式であり、行為の方式となる事物（名詞）を①指示を受ける位置（指示代詞）や所有者（人称代詞）によって分類したもの（“吃{这碗/那碗}、睡{我的床/你的床/……}”）、②属性（形容詞）によって分類したもの（“吃{大碗/小碗}、洗{凉水/冷水/温水/热水}”）、③同類の事物を下位分類したもの（“写{毛笔/钢笔/铅笔/……}、睡{沙发/地铺/……}”）、の大きく三つに分けられ、いずれも選択・対比項として機能する。従って、選択・対比の文脈依存度が熟語タイプに比べ高く、文脈を離れた連語レベルでは形成が困難で、類名として確立していないものも存在する。特に①は取捨選択のコンテキストにおいて用いられることが多く、極めて臨時的な組み合わせで行為パタンの名称になり難い。

②③の中には、類名として定着し熟語タイプに近づいているものもある（“洗凉水、睡沙发”）。③において、行為とその方式がごく当たり前の関係にある場合、新情報としてNが焦点化される形式でもある「V＋任意項N」の形成が不可能で（“吃筷子、睡床”）、Nの焦点化を促す対比などの文脈が必要とされる。また、通常考えられない想定外の方式による行為を「V＋任意項N」で表すこと（“吃教室、睡教室”）も、読み手・聞き手による言語的解釈ならびに言語外の社会的・文化的解釈が困難なため、文脈無しには不可能である。

本稿では便宜上「V＋任意項N」を熟語タイプと選択・対比項タイプに分けた

が、熟語タイプのNも本来は選択・対比項であったと考えた方が妥当かもしれない。文脈を離れた連語レベルでのVN形成が困難であっても、“吃教室”（注20参照）のように選択・対比の文脈により形成が促され文に生起するケースがあることを考えると、本稿で熟語タイプとした“吃食堂”の“食堂”も“吃{食堂／飯館／館子／……／（全聚徳）／（麦当劳）／……／（教室）／……}”のような「方式」になり得る数ある事物の一つであり、固定化が進みもはや選択・対比の文脈を必要とせずに成立すると雖も、“吃食堂”の成立過程ではやはりNが選択・対比項として認識されていたと考えるべきであろう。また、同じく熟語タイプの慣用句“吃小灶”（特別待遇を受ける）の“小灶”が元々“吃{小灶／中灶／大灶}”（{特上の料理／上の料理／並の料理}で食べる）のように選択・対比項であったことも熟語タイプと選択・対比項タイプのつながりを示す証左となろう。孫天琦2019が指摘する「V＋任意項N」の形式そのものが具える類別性と対比性の特性が、文脈依存度の差はあれ“睡課桌”や“吃教室”のような新たな「V＋任意項N」連語を生み出す可能性を広げる内的要因になっているのだと言える。

【注】

- 1) “抹（塗る）、涂（塗る）、刷（刷毛で塗る）、盖（かぶせる）、罩（かぶせる）、裹（巻く）”のような付着義動詞と格関係を持つ「材料」[場所（着点）]はどちらも付着の動作を受けることから受動者的である。また、この種の「場所（着点）」は方位詞が付いていないことから、物体である「受動者」として、なおさらのこと格解釈し易くなる。
- 2) 本稿で任意項と呼んでいる目的語位置の名詞が担う意味役割は“非核心格”と呼ばれるものに相当する。また孫天琦 2019ではこの種の名詞目的語を“旁格宾语”と呼んでいる。
- 3) “走过场”の“过场”とは京劇で進軍または行路中であることを表すために俳優が舞台を素通りすること（転じて、形だけ取り繕ってお茶を濁すこと）であり、“走”と組み合わせても同じ意味を表すが、“走过场”を「京劇俳優が“过场”の演技で舞台を歩いて行く」と解釈するならば、“过场”は「方式」を表していると言える。
- 4) “洗温泉”の“温泉”のように通常「場所」とされる“吃食堂”の“食堂”も「方式」と見なすべき

- との指摘は既に史有为 1997にあり、これを受けて単宝順 2011, 283-295も“吃食堂、读大学、念快班、跑里圈、写卡片、洗温泉、睡小床、走小路、唱堂会”などのNを“方式类宾语”（方式類目的語）と名づけている。
- 5) 杉村 1999、同 2017参照。
- 6) 杉村 2017, 217によれば、“吃{食堂 / 饭馆}”に類する伝統的な表現“吃馆子”（料理屋で食べる、料理屋に通う）には道楽、贅沢に近いニュアンスが含まれると言う。
- 7) 孟琮・他 1987《动词用法词典》，802では“洗{凉水/温水}”のNを〔道具〕とする。
- 8) 孙天琦 2019は「V＋“旁格宾语”」（本稿の「V＋任意項N」に相当）について、意味上、分類性（類別性）と対比性を強く具える構造であるとし、このVN構造の形成を“选项集合”（alternative set：例えば、“游{蛙泳 / 蝶泳 / 仰泳 / 自由泳 / ……}”の{ }内の集合）によって統一的な解釈を試みている。
- 9) この例文の元々の出処は、冯胜利 2005, <轻动词移位与古今汉语的动宾关系>,《语言科学》2005年第1期。
- 10) 杉村 2017, 230では取捨選択のコンテキストにおいて“用这条毛巾洗（脸）吧”（こっちのタオルを使って〔顔を〕洗いなさい）から“洗这条毛巾吧”（こっちのタオル^{マツ}を洗いなさい）への短絡も可能だと述べる。
- 11) Nが取り立てて目新しい情報的価値を有していない点では“洗头发”（髪の毛を洗う）も同じだが、こちらは「V＋必須項N〔受動者〕」のため対比などによる焦点化がなくとも連語レベルで普通に成立する。もちろん“洗头发”も既に連語レベルにおいて暗黙裡に“洗{头发 / 脸 / 手 / 脚 / ……}”のような対比の読みが働いていると考えることもできるかもしれない。
- 12) “吃食堂”は先述したように熟語タイプに属するが、Nが分類基準を伴う“吃{教工食堂/学生食堂}”“吃{大食堂/小食堂}”（ともに孙天琦 2019, 22の例）は選択・対比項タイプに属すると言える。
- 13) 「V＋任意項N」は多くの場合、選択・対比項タイプ、熟語タイプ（非慣用句・慣用句）を問わず、動量補語など動作量・時間量を表す語句を伴えばVにアスペクト助詞“了”を付加することが可能である。
- 〔選択・対比項タイプ〕

写了一次/两个月毛笔 (孙天琦 2019, 23)

睡了两次/一个月沙发 (孙天琦 2019, 23)

队员们到灾区以来就睡了一天床，其它时间都是在救护车里或帐篷中度过。(中新通讯，〈深圳救护车救援队之吃、住、穿〉：<http://news.sina.com.cn/o/2008-05-28/020613933824s.shtml>)
(隊員たちは被災地に到着してから一日だけベッドで睡眠をとり、その他の時間は全て救急車かテントの中で過ごした。)

[熟語タイプ (非慣用句)]

上个月，我们班子唱了好几次堂会。(单宝顺 2011, 285)

(先月、我々一座は何度も余興で演じた。)

我已经吃了一辈子食堂了。(单宝顺 2011, 285)

(私はもう生まれてからこのかたずっと食堂通いをしている。)

[熟語タイプ (慣用句)]

大山的学习成绩并不好，要不是佐藤老师在高考前给他吃了几个月的小灶，他是考不上东大的。

(例解：訳も『例解』による)

(大山君の学習成績はそれほどよくない。佐藤先生が入試の前に何カ月か個人指導していなければ、彼が東大に合格するはずはない。)

她为了一点儿小事儿哭了半天鼻子。(300：訳も『300』による)

(彼女はほんのちょっとした事で長いことめそめそしていた。)

但し、王红斌 2009は次の“吃大碗”“喝大杯”の例では不自然か成立しないとする。

? 吃了一个学期的大碗 (王红斌 2009, 92)

* 喝了一个学期的大杯 (王红斌 2009, 97)

14) このV“跑”は「～を求めて奔走する」の意味でNは「方式」というよりは「受動者」寄りの「目的」と見なした方が妥当かもしれない。

15) 対举形式とは鈴木2001によれば、「(一) 各構造形式の字数(音節数)が等しい又は近く、(二) 形式内部の文法関係が同じ又は似通った構造が、(三) 相互に文法上従属関係をもたないように、二個以上並列された表現形式」を指し、この定義に従えば(イ)も対举形式に当たる。

16) “饭馆”を“食堂”に替えた“*我们吃了食堂再走。”はやはり言えないが、次の例文中では“吃了食

堂”や“唱了堂会”も言えるようである。

吃了食堂再也不想吃饭馆了。(王红斌 2009, 96)

(食堂で食べたならもうレストランで食べたくなくなった。)

阿炳一生中遇到的富人，只是出钱雇他去唱唱堂会，甚至唱了堂会不给钱。(单宝顺 2011, 285, 《作家文摘》1993年)

(阿炳が一生のうちで出会った金持ちは、ただ金を出して彼を雇い余興で芝居をさせるだけの人間で、ひどいものになると演じても金をくれないのもいた。)

- 17) 次の文では、文脈から開始義がVN“吃食堂”全体に係っていると理解されるため、方向補語“起来”を付加することができる。

工作的地方离家太远，慢慢地，他也吃起食堂来了。(单宝顺 2011, 285)

(勤務先が家から大変遠いので、しだいに彼も勤務先の食堂で食事をとるようになった。)

- 18) “睡沙发”は“睡在沙发上”の短絡形ではない。方位詞の付いていないVN中の“沙发”は寝るトコロではなく寝るためのモノ(寝具)であり、広義の[方式]の意味役割を担っている。また“睡沙发”は一般的行為(行為の類型)に用いられるのに対して“睡在沙发上”は個別的行為(行為の事例)に多く用いられる。

- 19) “睡沙发”のように特殊な寝方のボタンとして定着しているとも言えるVNに“睡课桌”(教室の机で寝る)がある。昼休みに帰宅できない小学生が机の上に横になって昼寝することを指し、ニュースの見出しに用いられた次のような例がある。

校方称是“甜蜜的梦乡”

专家表示长此以往会造成脊柱侧位畸形

“无意中在高新一小的网站里看到，娃娃们午睡睡在课桌板凳上，标题是‘甜蜜的梦乡’。”

这条由网友“爆炒油菜”连文带图发布的微博近日受到了网友的广泛关注。

…… 针对学校挂出的“甜蜜的梦乡”的标题，网友“爆炒油菜”提出质疑，“你们确定睡课桌凳子上用各种别扭的姿势能很舒服，还能睡得真香？”

网友：睡课桌是传统

(观察者，<小学生集体躺课桌上午睡 校方称家长认可>: https://www.guancha.cn/society/2012_09_07_96172.shtml)

(学校側「甘い夢の世界」というタイトル

専門家「このままでは脊柱側弯症になる可能性も」

「偶然、高新第一小学校のホームページで、小さな子どもたちが机や椅子の上で昼寝をしている姿が目に入った。タイトルは『甘い夢の世界』。最近、ネットユーザーの「爆炒油菜」が写真とともにこの文章をWeiboにあげると広くネットユーザーたちの関心を集めることとなった。

(中略) 学校が掲げた「甘い夢の世界」というタイトルに対して、「爆炒油菜」は次のように疑問を呈する。「机や椅子に様々な窮屈な姿勢で寝ることが心地よくて、よく眠れると言いきれますか。」

ネットユーザー「教室の机で寝るのは伝統」)

ここに挙げた“睡课桌”も本稿で言うところの行為パターンに対するネーミングの一例とも言えるが、“睡课桌”の意味解釈が比較的容易なのは、そのような行為の社会的認知の高さも関係しているだろうが、“睡”+N」の意味構造にも起因していると言えそうである。受動者目的語をとらない“睡”が構成する“睡”+任意項N」は、Nに多く動作の落ち着き先(着点)でもあるモノ(時には“睡客厅”)のようにトコロ。但し本稿ではどちらも広義の「方式」と考える)が来ることから、受動者目的語を必須項として優先的にとる“吃”“喝”“洗”などが構成する「V+任意項N」よりも、比較的スムーズな意味解釈が可能になっていると言える。

- 20) 図の①に示した“吃教室”(教室で食べる)“睡教室”(教室で寝る)のNは、本来食事や睡眠をとる場所でない(教室で弁当を食べることはあっても教室は食堂のような食事の供給場所ではない)ことから、食事や睡眠の方式としての解釈が難しく、連語レベルでのVN形成が基本的に不可能だが、文脈と対挙形式の支えがあれば次のように文レベルにおける生起が可能になる(谢晓明 2008, 223参照。用例は谢晓明 2008が邢福义1991から引いたもの)。

那时候,我无处可去,又患着重病。恰好学校停课,几个学生娃子就帮我住进了教室。差不多整整两年,我都睡教室,吃教室。

(あの頃、私は行くべきところがなく、また重い病を患っていた。ちょうど学校が授業を停止しており、数人の子どもたちが私を教室に住まわせてくれた。およそ丸々二年間、教室で睡眠をとり、教室で食事をとった。)

【参考文献】

- 相原茂（1985）「“亲嘴”の“嘴”は誰のもの？」,『明治大学教養論集』176号, 25-52頁。
- 大河内康憲（1983）「描くための言葉」,『伊地智善継・辻本春彦両教授退官記念 中国語学・文学論集』: 498-513頁。東京: 東方書店（1983.12）。
- 木村英樹（2014）「“指称”の機能 — 概念、実体および有標化の観点から —」,『中国語学』261号, 64-83頁。日本中国語学会。
- 杉村博文（1985）「道具目的語の形成 — 中国語「動・名」構造の一側面 —」,『中国語学』232号, 14-22頁。日本中国語学会。
- 杉村博文（1999）「目的語の意味」,『中国語』7月号, 58-60頁。内山書店。
- 杉村博文（2015）「袁毓林「汉语意合语法的认知机制和描写体系」をめぐって」,『中国語学』262号, 31-56頁。日本中国語学会。
- 杉村博文（2017）「中国語VN構造における任意項の必須項転換」, 杉村博文・著『現代中国語のシンタクス』: 214-232頁。大阪: 日中言語文化出版社（2017.6）。
- 鈴木慶夏（2001）「対挙形式の意味とシンタクス」,『中国語学』248号, 182-198頁。日本中国語学会。
- 野田耕司（2019）「VNにおけるNの個性性について—Nの意味役割を中心に—」,『熊本学園大学 文学・言語学論集』第26巻第2号, 23-61頁。
- 陈昌来（2003）《现代汉语语义平面问题研究》。上海: 学林出版社（2003.12）。
- 任鹰（2005）《现代汉语非受事宾语句研究》。北京: 社会科学文献出版社（2005.8）。
- 单宝顺（2011）《现代汉语处所宾语研究》。北京: 中国社会科学出版社（2011.6）。
- 杉村博文（2006）〈“VN”形式里的“现象”和“事例”〉,《汉语学报》第1期。（本稿は、徐杰・姚双云・主编《动词与宾语问题研究》: 107-114頁。武汉: 华中师范大学出版社（2009.9）。に拠る）
- 沈家煊（1995）〈“有界”与“无界”〉,《中国语文》第5期。（本稿は、沈家煊・著《著名中年语言学家自选集 沈家煊卷》: 163-190頁。合肥: 安徽教育出版社（2002.12）。に拠る）
- 史有为（1997）「处所宾语初步考察」,『大河内康憲教授退官記念 中国語学論文集』: 81-105頁。東京: 東方書店（1997.3）。

孙天琦 (2019) 《现代汉语非核心论元实现模式及允准机制研究》。上海：中西书局 (2019.6)。

陶红印 (2000) <从“吃”看动词论元结构的动态特征>，《语言研究》第3期，21-38页。

王红斌 (2009) 《现代汉语的事件句和非事件句》。北京：光明日报出版社 (2009.9)。

谢晓明 (2008) 《语义相关动词带宾语的多角度考察——“吃”、“喝”带宾语个案研究》。武汉：华中师范大学出版社 (2008.7)。

谢晓明・王宇波 (2009) 〈动宾超常搭配实现的句法因素〉，徐杰・姚双云・主编《动词与宾语问题研究》：301-311页。武汉：华中师范大学出版社 (2009.9)。

邢福义 (1991) 〈汉语里宾语代入现象之观察〉，《世界汉语教学》第2期。(本稿は、邢福义《语法问题发掘集》：163-180页。武汉：湖北教育出版社 (1992.5)。に拠る)

徐默凡 (2004) 《现代汉语工具范畴的认知研究》。上海：复旦大学出版社 (2004.12)。

袁毓林 (1998) 《汉语动词的配价研究》。南昌：江西教育出版社 (1998.8)。

张云秋 (2004) 《现代汉语受事宾语句研究》。上海：学林出版社 (2004.10)。

【用例出典】(参考文献からのもの、用例の後にインターネット上のサイト名・URLを記したものは除く)

(例解)：伊地智善継・監修 王永全・小玉新次郎・編著『例解中国語慣用語辞典』。東京：東方書店 (1994.6)。

(300)：蘇向麗・編著 上野恵司・日本版監修 岡田玲・日本版翻訳『どう使う？会話で覚える中国語慣用語300』。東京：アスク出版 (2012.2)。

(用法)：孟琮・郑怀德・孟庆海・蔡文兰・编《动词用法词典》。上海：上海辞书出版社 (1987.6)。

(大词典)：林杏光・王玲玲・孙德金・编《现代汉语动词大词典》。北京：北京语言学院出版社 (1994.11)。

(BCC)：BCC汉语语料库，北京语言大学大数据与语言教育研究所
<http://bcc.blcu.edu.cn/>

(CCL)：CCL语料库检索系统，北京大学中国语言学研究中心
http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/index.jsp?dir=xiandai

【付記】

査読担当の先生方より貴重なご意見、有益なご助言を賜りました。ここに記して感謝申し上げます。

